

進路だより

第1号

2020. 6. 15 発行
大阪市立美津島中学校

新型コロナの影響で分割登校が続いていましたが、ようやく通常授業にもどることができました。これから「進路だより」を通じてみなさんに進路に関する情報を配信していきます。進路に関する様々な情報をもとに、最も自分にあった進路を選択しましょう！

○自分に合った進路（高校）を選ぶ

多くの人が中学校卒業後の進路として、「進学」を希望しています。けれども、進学先は、「全日制高等学校」だけでも、大阪府内に数百校もあります。その中から1校を選ぶのはたいへん難しいことです。積極的に高校を調べたり、体験入学などに参加したりして、自分で自分の進路を決められるように考えていきましょう。

しかし、具体的にどのようにして決めればよいのかわからないことも多いと思います。実力テストの結果や模擬テストの成績などから判断することが多いかもしれませんが、その高校が本当に自分に合った高校かどうかを判断するには不十分です。そこで、実際に高校に行ってみる機会（オープンスクールや学校説明会）を積極的に活用してください。高校に通っている先輩の話を聞いてみるのも細かな情報がわかってよいかもしれません。オープンスクールや学校説明会の案内は高校から届き次第、教室に掲示されるのでよく見ておいてください。また、渡り廊下などにもポスターを掲示しますので、いつオープンスクールがあるのか確認するようにしてください。

○推薦入試について

部活動や地域のスポーツクラブなどでがんばっている生徒に高校の先生からお声がかかることがあります。一般の入試とは異なったスケジュールで早い時期に進路相談が進められます。これがいわゆる推薦入試です。推薦入試には学校長の推薦が必要です。つまり、学校の生徒の模範となっはじめて推薦をしてもらうことができます。たとえば、ものすごくサッカーが上手で試合では大活躍の生徒がいたとします。ところが、この生徒は毎日寝坊をして学校に来て、授業中もよく寝ているとします。この生徒は模範生として、はたして推薦してもらえるでしょうか？

- ① 遅刻・欠席は多くないか
- ② 授業態度は良好か
- ③ 提出物などはきちんと出ているか
- ④ 学校のルールを守り、生活面などで問題はないか などなど

これら、あたりまえのことがきちんとできて初めて推薦入試が現実のものとなることを知っておいてください。

入試の合否はどう決まるのか

みなさんは入試の合否がどのように決まるのか知っていますか？ 入試の合否の判定の基準は、年によって様々に変化しています。入試の合否がどのように決められるのか確認しましょう。

合否の判定は総合的に行われる

合否の判定は、いくつかの要素を合わせて、総合的に決められます。

① 学力検査（ほぼすべての学校）

…いわゆる「ペーパーテスト」です。学校によって科目数が異なります。

※英検などの外部検定のスコアによって最低保障される点数が決まる制度もあります。

② 調査書・個人報告書（ほぼすべての学校）

…中学校での各教科の成績、活動の記録などが書かれています。中学校で先生たちが作成します。

③ 自己申告書（すべての公立学校）

…「高校で何を学びたいか」「中学校で何をがんばったか」などを書きます。いわば、自分をアピールする作文です。合否の判定にも使われます。

④ 面接（多くの私立学校と、一部の公立学校）

…個人、または数名のグループで、面接官の質問に答えます。聞かれて答えられないような質問はされません。服装や態度、ことば遣いが「なってない」場合は、いくらテストで点を取っていても不合格になる場合があります。

⑤ 実技試験（ごく一部の学校、学科のみ）

…体育科ならスポーツ、音楽科なら歌とピアノ、というように、実技を評価してもらいます。

校種による合否判定の方法

① 私立高校

…学力検査で基準点を越えることが原則です。基準点を越えていれば、定員以上の受験生が合格になります。基準点を越えられなくても、中学校での成績が考慮されて合格になる場合もあります。第1希望の学科・コースの基準点を越えていなくても、第2希望で合格になる場合もあります。面接試験を重視する学校も多いです。スポーツなどで実績を残している生徒に対する推薦入試制度や、成績優秀な生徒に対する特待生制度を持つ学校も多いです。

② 公立高校

…中学校の9教科の評定と、入試の点数を合計して、募集定員までが合格になるという形を基本としています。だから、中学校の成績と、入試での得点力の両方が大事です。定員が厳密に決められているので、志願倍率によって難易度が大きく変わります。